

令和3年度 研究外部評価（事前評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
21-P5	陶磁器用途における能登珪藻土の活用研究	15.8	B
研究期間	令和4年度～令和5年度（2ヵ年）		
研究概要	陶磁器の製造に用いられる型材や釉薬原料に、珪藻土の製造工程から排出される廃棄物を活用する技術を確立する。		
外部評価委員のコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の総量の有効活用（数百kg／月）だけでは市場規模が小さい様に思います。付加価値の高い利用を期待します。 ・ これまでの研究課題や業界ニーズ（環境負荷への対応）をふまえた研究であり、社会、経済への貢献が期待されます。 ・ 珪藻土の活用方法として、九谷の型や釉薬に利用して既存のものよりも耐久性や付加価値を上げるといことは価値のある石川県ならではの目標設定と思います。釉薬の色についても能登珪藻土だからこそ実現できるという何か特徴付けにもつながることを期待したいと思います。 ・ 将来の活用が期待される研究かと思います。 ・ 離型性がポイントですね。うまくいけばすごいと思います。 ・ 石膏型の耐久性向上や軽量化など必要な開発事案で、未利用資源の活用からも有意義だと思われる。 ・ 色合いがとても良いと思います。 ・ 石膏よりも性能が高いと考えられる珪藻土を用いて、陶磁器用の型を作製しようとする研究であり、伝統産業への貢献が期待できる実現可能性の高い研究であると思います。 ・ 地域資源である能登珪藻土の有効活用に関する研究は石川県の成長戦略に基づいた有益な研究テーマです。成果を期待します。 ・ 代替用途ではコストの比較も重要です。 			